

匝瑳探訪

⑦

地震のはなし

9月1日が「防災の日」に制定されたのは、1960年（昭和35年）のことで、関東大震災にちなんでいます。

地震は、83年前の1923年（大正12年）9月1日午前11時58分に発生、マグニチュード8の

大地震で、被害は火災・津波が加わり死者9万1000余、全壊焼失家屋46万余という大惨事となりました。

千葉県では房総半島南部の東京湾沿いが大きな被害を受けました。地域の被害状況は詳しく知ることができませんが、昭和46年出版の『野栄町百年史』には次のように記載されています。

九月一日白昼、関東地方に大地震あり。火災を併発して関東大震災となった。夜の西空は、夕焼のように燃え、その灰も本町（野栄町）まで飛来したという。

又本町の被害も甚大であった。甚大な被害の様子は記録がなく知られないものの、同様の話は今でも聞くことができます。

この大震災以前、江戸時代に県内でマグニチュード6以上の地震は9回記録され、最大のものは1703年（元禄16年）の「元禄地震」です。関東大震災クラスの地震で、

震源が房総沖であったことから大きな被害が出ました。房総の村むらが幕府に出した地震の被害は、死者3400人余とされていますが、正確な数はわかりません。地震は真夜中の午前2時ころに発生、被害者の多くが津波にのみ込まれた者でした。九十九里浜では津波の高さが4丈とされ、木戸川（栗山川）から一宮川までの間にこの地震で亡くなった人の供養塚が18か所あるとの報告があります。

九十九里沿岸村むらの被害は銚子にまで及んでいます。一説では、木戸村（横芝光町）から吉崎村（本市共興地区）までで2000人の死者が出たといえます。しかし、30年来に及ぶ調査でもこの地域では供養塚が見つかっていませんし、地震被害の言伝えも収集できませんでした。

市内の長谷・如来（よらい）寺や野手・龍藏院（りゅうざういん）には、元禄地震以前からの住職が大きな出来事をメモ風に記したものが残されています。それらを見てもこの地震の記載はありません。

想像するに、津波の被害はあったでしょうが、このころはまだ浜集落はなく、丘集落が海岸線から離れていたことが幸いしたのでしょうか。

関八日市場図書館 ☎73・3746

共興地区吉崎の海岸線沿いに広がる松林

